

特別調査事項（取引先金融機関の貸出姿勢等について）

特別調査事項として、取引先金融機関の貸出姿勢等について県内中小企業に尋ねたところ、次のような結果となった。

1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度については、約8割の企業が「ほとんど変わらない」とする中、2年連続で前回調査と比べて「緩やかになった」が減少し、「厳しくなった」が増加した。

この1年における銀行からの借入形態については、「信用保証を付している」(52.0%)が最も多く、次いで「無担保」(44.8%)だった。

県制度融資の利用状況については、46.9%の企業が「利用したことがある」としており、「知っているが利用したことがない」とする企業を合わせると85.6%となり、県制度融資が多くの中小企業に周知されていることを示している。

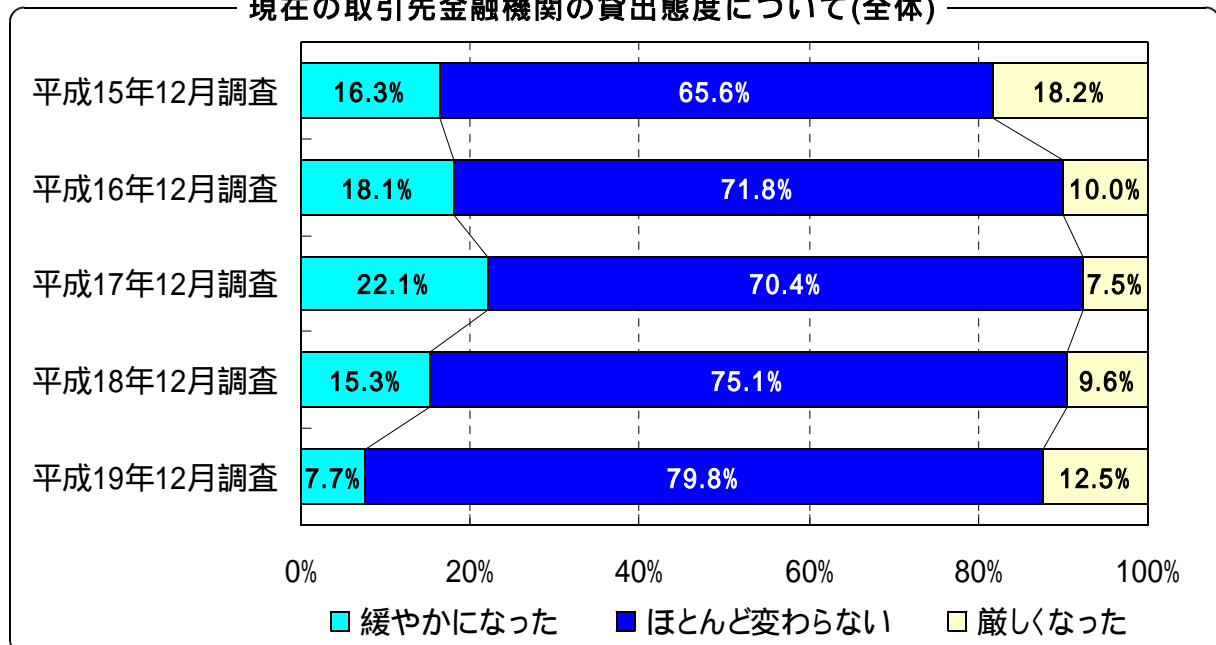
1 取引先金融機関の貸出態度について

(1) 1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度について（集計表P54参照）

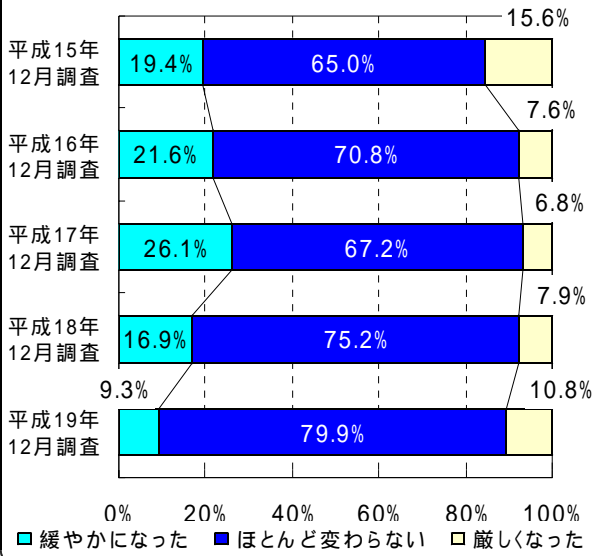
現在の取引先金融機関の貸出態度について、1年前と比べ「厳しくなった」か「緩やかになった」かを県内中小企業に尋ねたところ、全体では「ほとんど変わらない」とする企業が79.8%と最も多数を占めている中、4年ぶりに「厳しくなった」(12.5%)が「緩やかになった」(7.7%)を上回った。

前回調査と比べると、全体、業種別ともに、「緩やかになった」が減少し、「厳しくなった」が増加した。

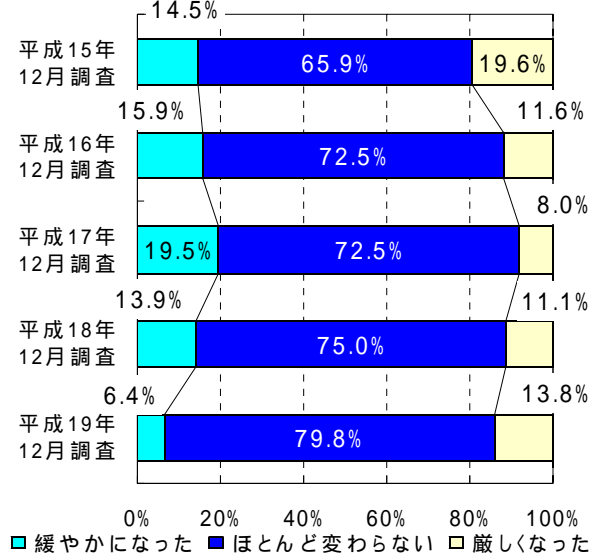
現在の取引先金融機関の貸出態度について(全体)



現在の取引先金融機関の貸出態度について(製造業)



現在の取引先金融機関の貸出態度について(非製造業)



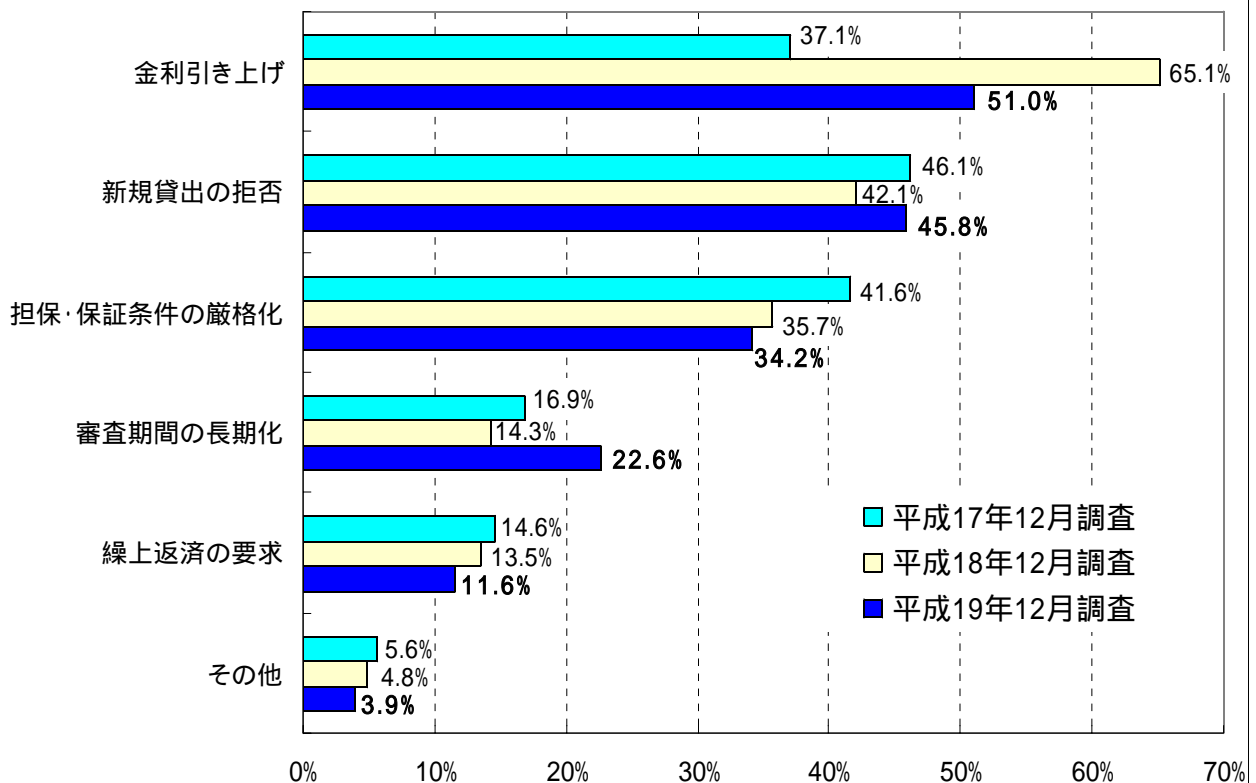
(2) 貸出態度が「厳しくなった」と考える理由について(複数回答)(集計表P55参照)

(1)で「厳しくなった」と回答した企業に対して、そう考えた具体的理由について尋ねたところ、全体では「金利引き上げ」(51.0%)が最も多く、次いで「新規貸出の拒否」(45.8%)、「担保・保証条件の厳格化」(34.2%)と続いている。

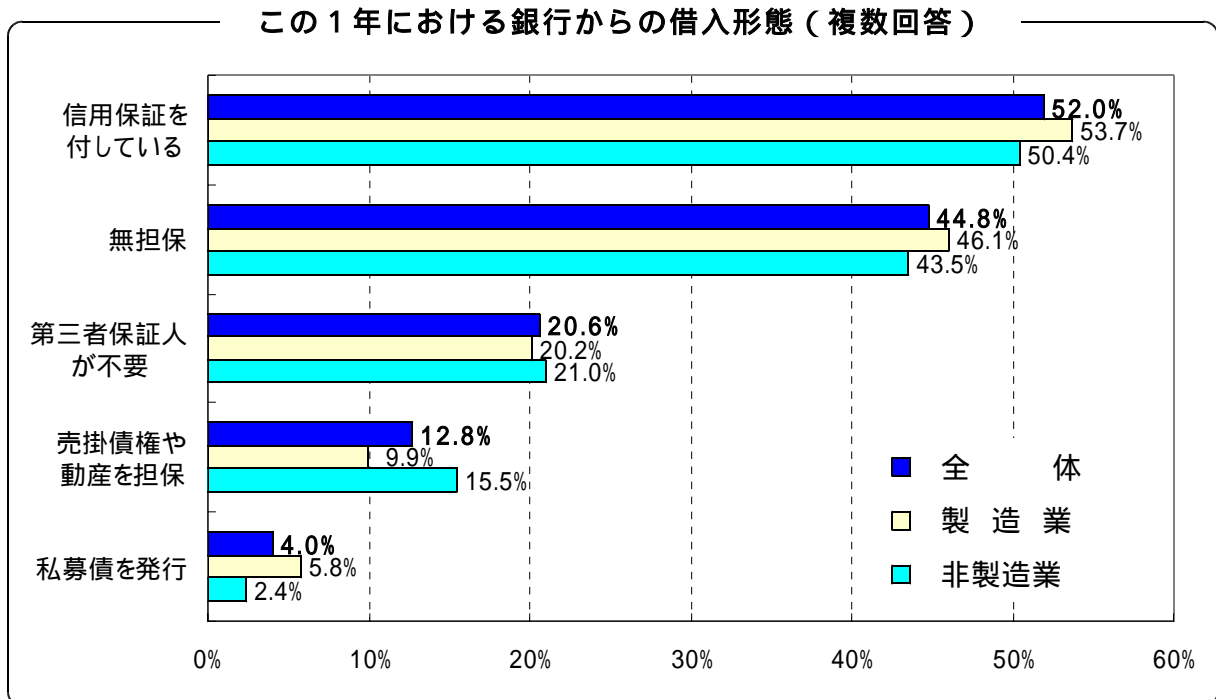
前回調査と比べると、「審査期間の長期化」(8.3ポイント増)及び「新規貸出の拒否」(3.7ポイント増)が増加し、「金利引き上げ」(14.1ポイント減)が大きく減少した。

「厳しくなった」とする具体的理由(全体)(複数回答)

(貸出態度が「厳しくなった」と回答した企業)



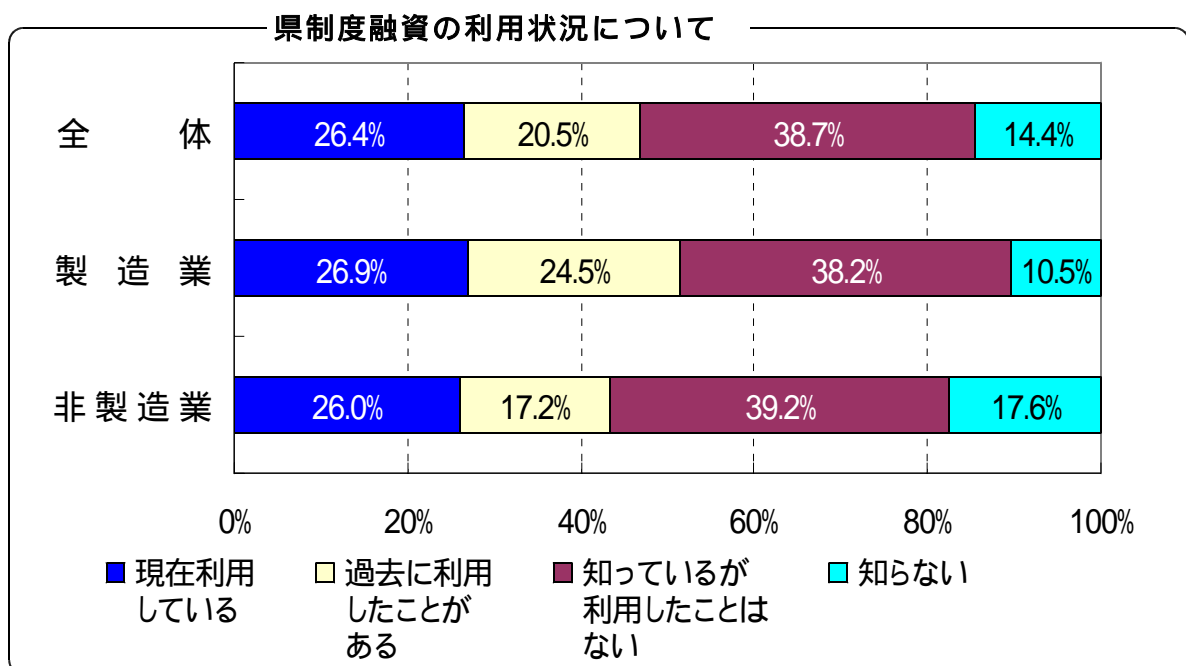
- 2 この1年における銀行からの借入形態について（複数回答）（集計表P56参照）
 全体では「信用保証を付している」（52.0%）が最も多く、次いで「無担保」（44.8%）、「第三者保証人が不要」（20.6%）と続いている。



3 県制度融資の利用状況等について

(1) 県制度融資の利用状況について（集計表P57参照）

全体では、「現在利用している」が26.4%、「過去に利用したことがある」が20.5%となっており、合わせると46.9%の企業が県制度融資を利用したことがあるとしている。また、「知っているが利用したことはない」（38.7%）とする企業を合わせると85.6%となり、県制度融資が多くの中小企業に周知されていることを示している。



(2) 制度融資について期待すること(複数回答)(集計表P58参照)

(1)で「現在利用している」、「過去に利用したことがある」及び「知っているが利用したことはない」と回答した企業に対して、制度融資について期待することを尋ねたところ、全体では「低金利」(75.0%)が最も多く、次いで「無担保・無保証人」(52.0%)、「手順の簡素化」(37.5%)と続いている。

